

第2回 福井県立美術館機能強化に関する基本計画策定委員会 議事概要

日時：令和7年9月4日（水） 13時30分～16時

場所：福井県庁 2F 中会議室

委員出席者（敬称略）

渡部葉子・赤土善蔵・浅野桃子（オンライン）・石堂和代・神野善治（オンライン）

戸田正寿・玉森慶三・虎尾弘之・坪戸雅彦

議題1 第1回委員会の振り返り

資料1に基づき事務局から説明

委員より意見なし

議題2 県民への意見聴取の状況報告

資料2に基づき事務局から説明

委員からの意見

- ・アンケートの結果がもうすこし蓄積されてから、適切に分析・読み込みを実施してほしい

議題3 基本計画策定の進捗報告

資料3に基づき事務局から説明

委員からの意見

（ビジョンについて）

- ・美術館が設置された理由や目指すものはよくわかったが、その伝え方が不足している
- ・美術館が目指すことを果たすことでどういう社会を作りたかったのか、という視点が設定されていないことが問題だと感じる

（強み・弱み、目指すものについて）

- ・自分から進んで行きたいと思ってもらえる施設になってほしい。そのためにも福井の美術のこ、館蔵の作品のことがわかるような館にしてほしい
- ・人と人がつながる場として美術館があればいいと思う
- ・強みがあることはわかるが、その強みを発揮できているか疑問に思う。この強みを発揮できるハードなり運営が必要であることに注意してほしい
- ・美術館の中だけで完結するような議論になっていることが心配。地元商店街に美術館へ行くような仕掛けがあったりすることも必要ではないか
- ・美術館が（交通上）不便なところにあるのは仕方ないとして、美術館そのものの魅力を高

める必要がある

- ・強み・弱みは他者からの意見を通して探っていくことも必要。その弱みの中にも強みになっていく要素があると思う
- ・「コンセプト」「基本理念」「目指す姿」など言葉は整理して使った方がいい
- ・「ビジョン」「ミッション」「コンセプト」も同じ。美術館あることでどういう社会を作りたいのかがビジョン、そのために何のため生まれたのかがミッション、ビジョンに到達するために解決すべきことがコンセプト。こうした視点で考える必要がある。言葉として掲げるだけでは意味がない
- ・看板作品の不足はデジタル化で解決することも可能ではないか。オリジナルは展示期間の制限があっても、デジタルでいつでも見られるというのはいい方法
- ・PRをしっかり行うこと。県外から来るような人には駅に着いた時点で美術館の情報が目に付くようにする。そうしたことにもデジタルは使える
- ・今持っているコレクションの良いところを強く訴えるようなことをすべき

(アンケート結果について)

- ・駐車場、休憩スペースの問題はアンケートを見ても明らか。避けて通れない問題では
- ・アンケート結果の「県立美術館に行ったことがありますか」の回答に驚いた。相当親しまれていると考えていいのではないか。これをどうバージョンアップするか
- ・

(設備について)

- ・展示室が必要なのであれば、思い切って収蔵庫を展示室にするようなことも視野に入れる必要がある。海外ではみられる事例である
- ・県美展（貸館）に使えるスペースが不足している。作品を厳選して減らす、一度にたくさん展示するなどで対応しているがそれでも厳しいものがある。増やしてほしい
- ・コンパクトでもいいから特徴的なスペースがあるといい
- ・オープンカフェは福井の天気、昨今の天気を考えるとなかなか活用しにくいのではないか
- ・現在とイメージが大きく変わっていない。それでよいのか
- ・設備は現在とあまり変わらないとしても、新しくなった部分をどのようにアピールするかが重要
- ・研修棟のある部分をどのように作っていくのか。本体と一体化させることが必要と思う
- ・入り口部分をどうするか、シンボルをどうするか。他県にも言えるようなものを作ってほしい
- ・資料室は地域に美術館の歴史を知ってもらえる場所となるので、過去の展覧会に関する資料などは公開して、学芸員の仕事を示すのもよい
- ・「見える収蔵庫」は興味関心を持たれると思う。今の流行りといえば流行り。たとえば一部だけを覗くように見るというのも面白い。作品の保存管理に支障のない範囲で行えばよい
- ・基本的には建物のリノベーション。新しい機能というよりも、これまでできていなかったことをどのようにやるのか、そこを見せることで新しい美術館の像を作っていく。ゼロから組みなおすのがベストだがそれができない以上、今あるものをきちんと見直して使って

ゆくことも大事

(運営について)

- ・体験スペースは子供たちが使えそうということがよくわかる。ただこういった場所をどのように運営するのか。学芸員ができるのか。運営できないなら場所があってももったいない
- ・マンパワーは重要。現実的にできるのかどうかを考える必要がある

(策定の過程について)

- ・県民とのコミュニケーションはすでに始まっている。方針があるのならそれを適切に説明すべきで、状況についてもきちんと伝えるべき
- ・どれだけ県民が自分事として考えてくれるかがとても重要。アンケートなども使いながらきちんとそういう状況を作るべき